

科目名 (英)	保健Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大久保 幸美
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>人体構造に関する講義に関しては、学生たちが「今日は何を学ぶのか?」「今は人体のどの部分を勉強しているのか?」を明確にしなが ら習得できるよう授業を展開していく。まずは「人体の仕組みや構造に興味を持ってもらうこと」が知識習得の近道であるため、実際 に自分達の生活や経験に関連付けた内容で、わかりやすく説明し、名称の暗記だけではなく、根拠に基づいた深い理解を目的とす る。皮膚科学においては、1章・2章で学ぶ皮膚の基本構造の習得が、その先の理解に大きく影響してくるため、序論の部分が確実に 学生の知識となることを目的とする。疾患等の内容に関しては、教員がこれまで臨床で経験してきたことなどを、余談のような形式で 伝えることで、学生たちの興味や関心を惹き、記憶に残りやすい伝え方で展開していく。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>人体構造、皮膚科学とともに、1年次での学習の再確認をするとともに、国家試験での出題傾向を意識しながら授業を展開していく。毎 回の授業で確認テスト(小テスト)を実施し、各回ごとに自分の得意不得意を明確にしていく。特に2年次においては「試験に慣れる」 「4択問題に慣れる」といった国家試験を意識した進め方に重点を置き、期末試験までの間に小テストを計12回、中間テストを計2回計 画。頻回にテストを経験することで、国家試験に向けての意識を高め、出題傾向を把握し、正解率の精度を高めていくことを達成目標 とする。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書・講師作成PP資料(毎回プロジェクター使用)				各回のテスト範囲を事前に伝えることで、自宅学習・事前学習の 動機づけとする。			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	1編 第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖・第2章 骨格器系						
2	1編 第3章 筋系					30問(2択問題) 2点満点	
3	1編 第4章 神経系					30問(2択問題) 2点満点	
4	1編 第5章 感覚器系					30問(2択問題) 2点満点	
5	1編 第6章 血液・循環器系					30問(2択問題) 2点満点	
6	1編 第7章 呼吸器系・第8章 消化器系					30問(2択問題) 2点満点	
7	中間テスト① 1編 「人体の構造及び機能」					20問(4択問題) 10点満点	
8	2編 第1章 皮膚の構造					30問(2択問題) 2点満点	
9	2編 第2章 皮膚付属器官の構造・第3章 皮膚の循環器系と神経系					30問(2択問題) 2点満点	
10	2編 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能					30問(2択問題) 2点満点	
11	2編 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健					30問(2択問題) 2点満点	
12	2編 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患					30問(2択問題) 2点満点	
13	中間テスト② 2編 「皮膚科学」					20問(4択問題) 10点満点	
14	保健 総復習 期末試験対策						
15	期末試験 保健 1編「人体の構造及び機能」 2編「皮膚科学」					30問(4択問題) 60点満点	
【特記事項】保健に関しては「1編:人体構造」・「2編:皮膚科学」と内 容が区分されているため、各編ごと振り返りの意味でそれぞれ1回ずつ 確認テストを実施。(中間テストとして計2回実施)。2年次においては試 験回数を多く持ち、国家試験への意識の向上を目指したいと思います です。				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価す る。			

科目名 (英)	化粧品化学 I Physics and Chemistry for Beauty	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川名 修
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	木
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
民間企業で材料開発に携わり、化粧品にも精通した講師が講義を担当する。目的:美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目的を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。							
【授業を通じての到達目標】							
この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に用いられるのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという絶対的な命題のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を強く意識して授業に取り組んでいただきたい。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
化粧品化学(日本理美容教育センター)				随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自立的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	導入、化粧品概論①						
2	化粧品用原料:人体各部の性状、水性原料						2点
3	化粧品用原料:油性原料						2点
4	化粧品用原料:界面活性剤						2点
5	化粧品用原料:色材						2点
6	化粧品用原料:その他の配合成分						2点
7	基礎化粧品:皮膚清浄用化粧品(石鹸など)						
8	中間テスト						20点
9	基礎化粧品:化粧水、クリーム						
10	メイクアップ用化粧品						2点
11	頭皮毛髪用化粧品:シャンプー剤、ヘアリンス剤、スタイリング剤						2点
12	頭皮毛髪用化粧品:パーマ剤						2点
13	頭皮毛髪用化粧品:ヘアカラー製品、育毛剤						2点
14	芳香製品と特殊化粧品						2点
15	期末テスト						60点
教科書巻末の付録は各授業の冒頭や必要な内容の際に解説をする。最終的には期末までに内容を網羅する。				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	文化論 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢幸子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格認定を受けた教員が、美容文化論の講義をする。理容業、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知り、これからの時代のデザインを起こすヒントを得る。文化論は美容師国家試験科目であり意欲をもって取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
理容美容、および理容業、美容業の成り立ちを知る。日本のファッション文化史を縄文時代から2000年以降まで修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書 シラバス プリント							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	第1章総論 第2章日本の理容業・美容業の歴史 1・2節					1	
2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史 3・4節					1	
3	第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代					1	
4	第3章 第2節 古代 (飛鳥・奈良・平安)					1	
5	第3章 第3節 中世(平安末・鎌倉・室町・戦国)					1	
6	第3章 第4節 近世Ⅰ(戦国末・安土桃山)					1	
7	第3章 第5節 近世Ⅱ(江戸時代髪型・化粧・服装)					2	
8	中間テスト 第1章～第3章5節までの範囲 30問					20	
9	第3章 第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの髪型)					2	
10	第3章 第6節 近代Ⅱ(明治・大正・昭和20年までの化粧・服装)					2	
11	第3章 第7節 現代Ⅰ(1945～1950年代)					2	
12	第3章 第8節 現代Ⅱ(1960年代～1970年代)					2	
13	第3章 第9節現代Ⅲ(1980年代～1990年代)第10節現代Ⅳ(2000年代以降)					2	
14	第1章～第3章まで 定期試験に向けての対策講義					2	
15	定期試験 第1章～第3章までの範囲 30問					60	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	市川 てるみ
学科・コース	美容師科	授業 形態	筆記	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	金
【学習の目的】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師としてサロンワーク、スタジオワーク、コンテストの経験を経て、現在もフリーのヘアメイク、美容師として活動する幅を広げている。教員として15年携わり、美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の現状を伝えながら、美容技術についての知識を深めていく。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師国家試験合格を目指し、各分野の美容技術を理解できるようになる。国家試験問題に対応できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論Ⅰ・Ⅱ教科書、筆記用具(マーカー含む)							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	12章 花嫁、着付け						
2	11章日本髪						
3	メイクアップ						
4							
5	10章 メイクアップの道具 ベースメイクアップ						
6	10章 各部メイクアップ まつ毛エクステンション						5点
7	今までの復習、振り返り、確認						
8	中間テスト						20点
9	中間テスト振り返り、復習、確認						
10	9章ネイル技術、概論						
11	9章 ネイル技術道具、手順						
12	9章ネイル技術注意事項						5点
13	8章 エステティック概論						
14	今までの復習、振り返り、試験対策						
15	定期テスト						60点
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点) / B評価(80~89点) / C評価(70~79点) / D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失) / F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容実習 ワインディングⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張 由香
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	月・火
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロンワーク プライダル 撮影の仕事を経験し基礎技術の重要性を知る。 間違いのない基礎技術をゆっくり丁寧に学びワインディングの技術を向上させる。							
国家試験に向けて全頭20分で正確に仕上げられるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	正確な巻き方を確認する。全頭23分で仕上げる						
2	ブロッキング強化、配列の復習と確認。全頭23分で仕上げる						
3	巻き方の間違いを治す。全頭22分で仕上げる						
4	姿勢と巻き方を意識する。全頭22分で仕上げる						
5	上巻きの強化。全頭21分で仕上げる						
6	下巻きの強化。全頭21分で仕上げる						
7	中間テスト全頭20分で正確に仕上げる					20点	
8	国家試験の採点を覚える。全頭20分で仕上げる						
9	ブロッキングとセンターの強化。全頭20分で仕上げる						
10	フロント～右面の強化。全頭20分で仕上げる						
11	左面の強化。全頭20分で仕上げる						
12	姿勢の見直し。全頭20分で仕上げる						
13	配列を綺麗にしていく。全頭20分で仕上げる						
14	国家試験衛生の強化。定期テスト全頭20分で仕上げる					60点	
15	巻き方を確認修正。全頭20分で仕上げる						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容実習 オールウェーブⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山下・小笠原・飯野・佐々木
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木・金
学科・コース	美容師科						
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目 実務経験20年以上の教員が担当 第2課題であるオールウェーブセッティングを合格レベルに到達させ、国試審査基準を理解した作品に作成するための技法を指導							
【授業を通じての到達目標】							
国試課題の科目を合格点までもっていく。レベルアップと不得意箇所の改善。審査項目を取り入れる作品作り。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
道具一式 衛生用具一式 ノート 教科書 筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	1年次の復習 確認 全頭35分完成 7段構成確認						
2	1段目 2段目 3段目までタイムアップ スカルプチュアカールの完成度をあげる。3段目までのバランス強化						
3	フィンガーウェーブ強化 7段ウェーブ幅 くりぬき部分の確認						
4	4段目 5段目強化 リフトカールの完成度をあげる。						
5	6段目メイボールカール					5	
6	7段目クロッキノールカール カールの位置とピンニング強化					5	
7	中間試験 全頭30分 7段ウェーブバランスとカールの位置					20	
8	ウェーブ リッジ強化 毛流れハーフウェーブになっているか 割れや重なりがないか						
9	左右ウェーブと中央カールのエリアの確認 3等分になっているか						
10	ステムの方向性 リフトカールのステムおさまりの見直し						
11	耳まわりのウェーブ リッジ 幅の強化 右側ウェーブ強化						
12	審査項目意識しながら 完成度をあげる						
13	全頭25分を仕上げる。不得意箇所の改善					5	
14	定期試験に向けてタイムの確認 タイムアップ 見直し					5	
15	定期試験全頭25分					60	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容実習 国試カット	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野・小笠原・鷲尾・井坂
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	火・金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上関わってきました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的：美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要：この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けてながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】 規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 国家試験で使用する教材(初回持ち物参考)				【授業外における学習】 前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)また公欠の場合は過大提出により小テストの配点分評価をする。			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	授業の内容説明および作業準備、CUT基礎技術の確認、作業手順①						
2	作業手順の導入②						
3	作業手順の導入③						
4	手順全体の復習						
5	フロントCUTまでの手順を反復						5点
6	第3ブロックまでの手順を反復						5点
7	第1ブロックまでの手順を反復						中間20点
8	部分ごと区切りながら練習						
9	8回目の復習とスピードアップ						
10	全行程通して27分でカットする						2点
11	全行程通して25分でカットする						2点
12	全行程通して22分でカットする						2点
13	全行程通して20分でカットする						2点
14	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする(チェックカット導入)						2点
15	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする						総合確認60点
【特記事項】上記内容は対面登校を想定してのシラバスになる。 オンライン、分散登校などの場合は2セメの最終目標到達に向けて随時内容は変更する				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	就職講座 I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	神谷・野村・鈴木・尾崎
学科・コース		美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。 美容師(職業人)として必要な身構え・気構え・心構えを理解し、目標に向けて、行動する事が出来る。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることができる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 学校行事を通して目標設定やスケジュール管理を行えるようになる。国家試験の概要を理解し、必要な知識を身につけていく。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	自己紹介(すごろく自己紹介)・サポートアンケート・QJ就職フェアについて					基礎学力チェック	
2	チームビルディングのグループワーク(LEGO) 就職活動について<SNSメールのやりとりの仕方>					基礎学力チェック 5点	
3	就職活動について<電話マナー・オンライン面接マナー>					基礎学力チェック	
4	封筒宛名書き復習・人間力チェック					基礎学力チェック 5点	
5	ITリテラシー・就職関係(履歴書作成)・筆記模試問題					基礎学力チェック 5点	
6	就職関係(履歴書作成)・筆記模試問題					基礎学力チェック 5点	
7	就職関係(履歴書作成)・筆記模試問題					基礎学力チェック 5点	
8	敬語問題・コミュニケーション力を鍛えるグループワーク					基礎学力チェック	
9	就職関係(履歴書作成)・筆記模試問題					基礎学力チェック 5点	
10	内定用写真・卒業アルバム用写真撮影					基礎学力チェック	
11	チームビルディングのグループワーク(ベル文化祭に参加しよう)					基礎学力チェック 5点	
12	国試筆記模試問題					なし	
13	一般常識問題・自己分析(認知特性)ワーク・夏休みに向けた就活スケジュール確認					基礎学力チェック 5点	
14	コミュニケーション力を鍛えるグループワーク					基礎学力チェック	
15	基礎学力テスト総集編					定期試験60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	飯野・佐々木・張・松永
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木・金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に付けながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
2	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
3	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
4	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
5	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
6	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
7	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
8	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認					1点	
9	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認					1点	
10	模試振り返り 弱点強化					1点	
11	次回模試に向けての練習					2点	
12	次回模試に向けての練習					2点	
13	模試振り返り 弱点強化					2点	
14	次回模試に向けての練習					2点	
15	次回模試に向けての練習					2点	
【特記事項】 模擬試験の結果を中間・総合確認試験の点数に反映する。授業内容はWD、AW、国試Cの3課題の通常授業での進行状態により、課題を入れ替えて行うものとする。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			